

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月11日

[評価実施概要]

事業所番号	270200611		
法人名	社会福祉法人 伸康会		
事業所名	グループホーム あけぼの		
所在地 (電話番号)	〒036-8323 青森県弘前市浜の町東1丁目7番地4 (電 話) 0172-38-1770		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 10月 17日	評価確定日	平成 19年 12月 11日

[情報提供票より] (平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 10年 1月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤	2人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,600 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	1,380円	

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1		名	要介護2 5 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 86.5 歳	最低 76 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いわね内科胃腸科医院・松野歯科医院
---------	-------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

ホームは、民家が密集したごく普通の町並みの中にある。近くには児童館や保育園、神社などもあり、ホームに移り住んだ後にも利用者は見慣れた風景の中で地域に溶け込んで暮している。天窓などから自然光がさりげなく注ぎ込んで明るい家庭的な雰囲気のリビングで、家でやっていた楽しみごとや役割を持った馴染みの暮らしを続けられるようにと親切、丁寧に支えてくれる職員と、和気あいあいと過されている。
--

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回は要改善点なし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 年度途中から就任した管理者の評価と職員の評価をすり合わせながら作成されたこともあり事業所の役割の変化などを踏まえてのホーム独自の改善課題が十分に抽出されていない。利用者の暮らしを良くして行こうという両者の共通の思いを具現化するためにも、職員一人ひとりが評価を活用することに期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所からはホームでの暮らしや外部評価の結果などを報告し、参加者からは町内行事などを報告しあっているほか、認知症ケアやサービス内容などの幅広い分野に渡って討議され、それを直ちにサービスに活かしている。残された利用者、地域の福祉ニーズなどの課題の解決・緩和に向けて市の担当者への行き来を多くして、共に取り組むことに期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 利用者の暮らしぶりについては面会時や毎月のホーム便りで、健康状態については変化がある都度詳細に報告するなどして開かれたホームの具現化に努めている。また、気がかりなことや要望、意見を家族に気軽に言ってもらえるようにと面会時に積極的に声がけしたり、外部者にも気づきがホームをより良くし職員の力量を高めることを繰り返し伝える、それらの意見を真摯に受け止めて、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内会の集会や祭り、ゴミ拾いなど地元の行事に参加しながら地域との交流に努めている。また、近くの児童館、保育園の訪問や運動会の見学を通じての相互交流のほか、ホームの祭りの時に訪れた町民に広報誌を配布するなどして、認知症ケアに対する普及も行っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲示しているが、地域密着型サービスとして果たすべき役割を反映させたものにはなっていない。	○	地域や利用者・家族のニーズ、事業所の役割の変化などを全職員で確認しあい、意見を持ち寄り、地域密着サービスの役割を加味した実践的な理念を作成することに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、「忙しい時こそ念頭に入れて。」「掲示している理念が飾りにならないように。」等と、関わりの振り返りの時に必ず理念に触れ、職員と確認合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、町内会の集会や祭り、ゴミ拾いなど地元の行事に参加しながら地域との交流に努めている。また、近くの児童館、保育園の訪問や運動会の見学を通じての相互交流のほかホームの祭りの時に訪れた町民に広報誌を配布するなどして、認知症ケアに対する普及活動も行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価が「改善点なし」との評価だったことなどにより、評価が有効に活用されていない。	○	評価の意義、利用者、家族、地域のニーズや事業所の役割の変化などを全職員で確認し、評価をサービスの質の「確保」のみならず、サービスの質の「向上」のために活かすことが望まれる。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からはホームでの暮らしや外部評価の結果などを報告し、参加者からは敬老会などの町内行事の報告をし合いながらサービスの内容や認知症ケアなどの幅広い分野に渡って意見交換し、そこでの意見をサービスに活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で市の担当者とやり取りする機会は少ない。	○	市担当者のところへ出向く機会を増やし、現場や利用者、吸い上げた地域の福祉ニーズなどの課題の解決に向けて、一緒に取り組んでいくことに期待したい。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、定期購読書などを活用して学んでおり、発見時や相談があれば、迅速に対応できる。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加者の復命などを通じて、全職員に心身の両面にわたる虐待についての浸透をはかり、事業所内のみならず事業所外における虐待も見過ごさないようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に説明しているほか、利用後に利用者や家族から出された不安や疑問点に対して、その都度丁寧に説明している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月のホーム便りで利用者の暮らしぶりを伝えている。健康状態については変化がある都度詳細に、金銭については家族と話し合っ決めて方法で定期的に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を置き、家族へは面会時などに積極的に声をかけて話しやすい雰囲気をつくりながら、気軽に要望や意見を言ってもらえるように伝えている。また、家族等の外部者の意見や気づきが職員の力量やサービスの質を引き上げるために不可欠である事を、管理者は各方面にくり返し伝えている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所間の異動は必要最小限にしている。離職者が離職後に訪れて声がけをしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数などを踏まえて研修に参加し、研修結果を全職員に報告している。また、法人として働きながら資格を取れるように支援していることもあって、有資格者が多い。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外の研修に参加させるなどして意識的に同業者と交流をもつようにし、他事業所の良い点は積極的に取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気にならないうちに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に面接し、納得した上で利用していただいている。また、その方の過ごし方、身の回りの物品に対するこだわりや趣味を聴取して、利用後もその人らしい暮らしが継続できるように配慮するなどして徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつて喜ぶ関係を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事仕事などの後には「ありがとう。」と感謝の言葉を伝えるなど、共に支えあう関係を築こうとしている姿勢がうかがえるが、トイレ内の便器は職員用と利用者用とに区別され、職員用は利用者が使うことはできない状態になっている。	○	利用者の喜怒哀楽を、暮らしの中で分かち合い、共に過ごし支えあう、対等な関係を築いていくという視点に立って見直すことが望まれる。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の各場面で利用者の希望や意向を聞き、希望を正確に伝えられない利用者に対しては2, 3の事例を用意して選択してもらうなどして、本人の決定を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段の過し方の洞察や記録などを、利用者、家族、職員が共有し、相談しながら作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース会議で計画が本人に合っているか定期的に確認している。また、変化があれば随時見直しされ、散歩等の予防的視点も計画に取り入れられている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族と話し合いながら、外泊、外出、買い物、ドライブなどの要望に、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人等の希望する病院に受診できるように支援し、通院時は、積極的に医療機関に情報を提供し、適切な医療が受けられるように支援している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合などについて家族と話し合っ、家族の意向を確認している。地域の諸情勢から短期間の看取りについての検討が必要であることは認識されているが、具体的な対応方針は定められていない。	○	看取りの必要性が生じた場合等における、事業所の実情に即した具体的な対応の指針を文書化し、関係者間の意思統一を図ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や生活の各支援の場面でも、誇りやプライバシーを損ねる対応や言葉かけは行われていない。個人情報の取り扱い方についても、本人、家族の同意を得た範囲で使用している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、個々の利用者のペースを把握しており、その方に合わせた対応をしている。また、一人で気ままに散歩したい利用者が外出した時は物陰からそっと見守るなどして、さり気なく支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なメニューと前もって知っている時は代替食を提供している。また、食事の準備、片付けなど、個々の利用者の力を活かせる場面がきたら、「お願いできますか。」等、タイミング良く声がけしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気心の知れた利用者と入浴できるようにする、好みの温度、入浴したい日、入浴の順番、本人のこれまでの入浴習慣などに配慮するなどして、入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事など本人の得意とする仕事や編み物、買い物、ドライブなど、一人ひとりの役割や楽しみごとを見出して支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の利用者も含め、天気の良い日には近所の神社や児童館に出かけている。外出したがない利用者には興味を引く言葉がけをするなど工夫して、事業所だけで過ごすことがないようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという方針は全職員に浸透し、実行されているが、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」については、全ての職員に周知されていない。	○	「サービス評価ガイドブック」などを活用して、全ての職員が禁止対象となる具体的な行為について、正しく理解することが望まれる。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、職員の手薄になる入浴時間と職員が危険と予想した時に職員の判断で鍵をかけている。また、見守りのできる時間帯でも、「浴室まで聞こえるように」と設定されたチャイムが鳴っている。	○	市の担当者、家族、地域住民などとも率直に意見交換し、チャイムに頼らない工夫や日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援するための取り組みにを期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内の人を組み込んだホーム独自の地域協力隊を組織し、年2回、昼と夜を想定した訓練をおこなっているが、その他の災害対策に対する訓練等は行われていない。	○	火事以外の災害についての取り決めのほか、災害発生時に備えて数日分の飲料水や食料等を用意することに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好に配慮して献立を作成しているが、栄養の専門的な観点からの定期的なアドバイスは受けていない。	○	突然、「これ食べたくない。」と申し出た利用者への臨機の代替食の支援のほか、一人ひとりの実際の摂取カロリーや栄養バランスはどうなっているのかなどについて、母体施設の栄養士等の協力を得て定期的に点検することが望まれる。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症マニュアルは整備されているが、定期的見直しや更新は行われていない。	○	マニュアルを定期的に更新するなど工夫して職員の振り返りを促し、全職員が最新情報に基づいて、的確に行動できるようにすることが望まれる。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を設置するなどして自然の光を取り込んでいる。リビングには季節の花が飾られ、木目を基調とした全体的な色合いや障子戸、調度品も家庭的で温もりがあり、落ち着ける。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、家族などの写真や自宅で使っていた冷蔵庫、タンス、仏壇などを自由に持ち込んで、思い思いに過ごされている。		

※  は、重点項目。